

今年もいろいろあった。1月1日、元旦はやることがないのでヤフオクをネットサーフィンしていたら、ジープの文字が出てきた。そんなところらのジープではない。1954年（昭和29年）車、米国ウィルス社製でモデルはCJ3Bとある。

時代背景から行くと終戦があり、日本は米国から物流のみならず、機械の汎用性やメンテナンスのしやすさを学んだ。その代表作が四輪駆動のジープだ。戦後、警察予備隊、保安隊、警察をはじめとして農林、水防関係機関でも使われ、平成になるまで長沼では土地改良区でも使用された本場もののレジェンドである。

農用から乗用に変わった我が家のジープ

「金髪・ブルーアイは最高だ」と言っただけで覚えているが「アメリカ製のエンジンは日本製よりも頑丈なんだ」と父がよく言っていた。

脳細胞が爆発的に活動を始めて、自分のガキだったことを思い出した。

昭和30年ごろの話だろう。この左ハンドルのジープ後方にPTO（外部出力装置）を装着して田を耕すロータリーが活躍した話をやはり父からよく聞いたが、ジープの最大の欠点である最小回転半径が2t車くらいあるので小回りが利かない。そ

れで2年くらい使ってトラクターにしたらしい。その結果ジープは我が家の乗用車となった。

その後、三菱がまったく同じ車体とエンジンで右ハンドル車をライセンス生産し始めると、我が家の乗用車（ジープ）は外車から国産に代わり、そのまた10年後にはエンジンがガソリンから燃費の良いディーゼルに替わっていった。

時が20数年たち、昭和57年くらいまでジープは我が家にあった。1年間くらい使用しないで外に放置しておいたところ、10月になって「1年前にもこのジープを見た」と言う東京の狐をする人がピンポーンとやってきて「20万円で譲ってほしい」となった。

放置していたし当然車検も切れていることを伝えたが、この狐師さんは「この車にはその価値がある！」と奇妙なことを言った。商談成立後は50mくらい離れた倉庫からジープのバッテリーを充電してエンジンをかけて、彼は無車検、無保険で東京に帰って行った？

愛しの Vol.103 “金髪・ブルーアイ”ジープ



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月で中退後、農業を継ぐ。子ども時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたことで、反対派の批判の対象になっている。

Illustration by Kazushige Akita

運命のジープを 求めて熊本へ

話はヤフオクのジープに戻します。このジープは左ハンドルでタイプはCJ3Bであり、父が話していた記憶とドンピシャ合う車である。何か運命じみたと言えは大きくなるが、草葉の陰から「息子よこのジープ買わないか」と言っている気になってきた。連絡先が表記されていたので、

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール・ミヤイの憎まれ口通信

さっそく電話を試してみた。現在の所有者は熊本県に在住されている。

福井でBMWのディーラーにいた整備に詳しい方に声をかけたところ、現物を見に行きたいとの申し出を快く引き受けていただき、スカイマークで千歳から福岡間、片道¥8900の空の旅となった。

JRで熊本駅から行くよりも博多からレンタカーのほうが近いとのことなので指示に従った。1時間ほどで到着すると、御年64歳の年金受給開始のジープがなんとダサイエンジン音で我々を待っていてくれた。

福井の元メカニックと車体を見て、フッド（ボンネット）を開けてこれまた驚き。なんとラジエター、サーモスタット、プラグ、デストリビューター、バッテリーも新品状態。

どう考えても簡単に手に入る品物ではない。「どこでパーツを購入したんですか」と聞くと、所有者は「アメリカのネットで普通に売ってます」とのこと。

10分くらいの試乗運転ではオープンカーだと思えなくても簡易のフロア仕様だけど、1月の熊本の寒風さえ暖かく感じる錯覚に陥る。

乗り心地：悪し、ドア・シートベルト：なし、当然ラジオもヒーターもない。車体は1tもないがステアリングは重ステ（パワステなし）。

考えてみると昔のフォークリフトを除けば、初めての左ハンドルのマニュアル車だ。最終評価は：満点である。ということで商談成立。

所有者は設備関係のお仕事をされているようで、現在は会長職の立場で、趣味でジープなどのレジェンド車に興味があるとのこと。今度はどのような車を購入するのか聞いてみた。近くに座っていた娘さんに聞かないような小声で「MBかな」。

これまた驚いた。MBと言えば先の大戦中に使用したジープで、TVドラマのラットパトロールでも使われたモデルだ。なんでも日本に実働可能なMBは数台とのこと。後からネットで調べてみたら、450万円即決にはブツたまげた。

搬送予定中に起きた 熊本地震

北海道までの配送はJRのゴトコン（5tコンテナ）を考えていたがJR九州では対応しないとのこと。

サイズは問題ないがクレーム対応ができないので、お断りしているらしい。そこで町中でよく見かける車を6台くらい運ぶ搬送車だと大阪、東京経由になり10日くらいで到着することになった。

だが待てよ。ラジエターの凍結温度はマイナス30度設定のクーラント

になっていないし、搬送車は裸状態。しかもこのジープは路面凍結のために散布される塩化ナトリウム（塩）による塩害対策車ではないので、真冬に長沼に持ってくるのは危険だということになり、4月20日以降の長沼到着にしてもらった。

そしてその日はやって来た。TVを見ると熊本で地震だ。建物がガンガン崩れている。あゝ今度は熊本かと心配しつつ、関係者はいたかなーと考えた瞬間、目の前が真っ暗になりかけた。

あのジープ、お金払ったし、熊本出たかなーと心配したところでどうにもならず。そんな心配をよそに翌日、所有者の娘さんから電話があり、「ジープ大丈夫ですからー」の一報にホット胸をなでおろす。

娘さんの話によると熊本地震の翌日にジープを出す予定だったらしいが、主要道路が寸断されたので1週間程度遅れるとのこと。やはり関係者が被災するのはなんともつらい感情になってしまいますね。

4月27日、ジープ到着。搬送車の運転者はすごいですね。左ハンドルのマニュアル車をひよひよいと下ろして次の現場に行っちゃいました。

到着後は関係書類を車屋さんに持参して農場の名前に名義変更、車番は381。なんでかって？「ミヤ

イ」って読めるでしょ。

改造車で JAの共済に加入

名義変更が終了するところを見計らって保険に入ることにした、車検上のこのジープはCJ3B改、そうなんです、改造車になるので普通の保険会社に相手にされないのです。

みんなが愛する農協の共済（保険）窓口に、関係書類を持参しました。窓口のキャワイイ娘にウツトリしながら速やかに手続きを済ませて待つが、1週間経ってもなんの返事もない。長沼を管轄する岩見沢支所でのこのジープが一番古い車両らしく、判断に時間がかかったようでした。無事加入でき、月に一度は父も愛した金髪・ブルーアイが作ったジープを楽しむことにしています。

さて、ここで考えた。日本も米国のように車検制度をなくして、どんな車でも道路を運転可能にする、ただし改造車はその程度によって保険を強制加入させ、その過程をすべて民間保険会社に任せたいのが良いのでは？トラクターも市町村ナンバーで登録できるようにしたのだから、そのくらいは簡単にできるだろう。はい、そのようなことを気がつく関係者は存在しませんでした。豊かな国、日本でしたから。